



セツブンソウの群落



フクジュソウ



スハマソウ



キバナノアマナ



伊吹山麓の集落(米原市)

# 早春の花に出逢う旅 〜セツブンソウ

☑山旅はここから

ここは伊吹山麓、小泉集落です。林の中に入ると、幻想的な早春の世界、セツブンソウの大群落広がっています。セツブンソウ(節分草)は、文字通り、旧暦の節分の頃(3月半ば)に花の時期を迎えることからこの名前

## 林の中に足を踏み入れると、幻想的な早春の世界

☑見事な大群落  
集落にあるお寺に立ち寄ると、その境内には、旧暦の元日に咲く黄金色の花、「福告ぐ草」、転じてフクジュソウ(福寿草)が輝いていました。  
しばらく山側に進んでいくと、小さな谷川のせせらぎが聞こえてきます。ワサビ、フキノトウ、ミヤマカタバミ、オオタチツボスミレ、オドリコソウ、ハコベなどが迎えてくれます。そして、白い花弁のスハマソウ(州浜草)が元気に存在感を示していました。ここからは、林道歩きで大久保集落へと向かいます。上の方に目をや

がつきました。深く羽状に切れ込んだ葉の上に、がくが変化した白い花びらが同じ向きで可憐に咲き誇っています。毎年、私の山旅は、このセツブンソウとの出逢いから始まります。  
大久保集落に到着。群生地としてその名を馳せている通り、セツブンソウの大群落は「見事」としか形容ができません。一面が花畑です。日の当たる林のふちには、ユリ科のキバナノアマナ(黄花の甘菜)が単独で開花しています。さらに、下板並集落まで足を延ばすと、大輪のアズマイチゲ(東一華)の群生を鑑賞できます。

☑希少な自生地

今回紹介した早春の花は、今や自生地も少なくなり大変希少です。集落の方々の献身的な保全努力の上に成っています。訪れる際には、道を外れないなどフィールドでのマナーを守って、早春の世界を体いっぱい感じてほしいと思います。

# 伊吹山

やまはな便り



伊吹山ネイチャーネット  
ワーク事務局長

山下 吉和